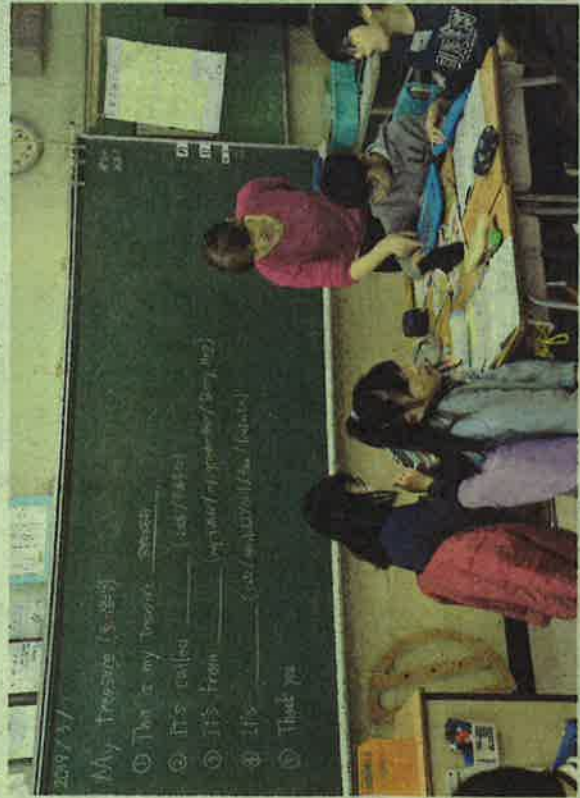


# 育む

横浜市立伊勢山小学校の和田恭子教諭はマレーシアからの帰国子女。学級を持たずに英語だけを教える専科教諭だ  
(1日、横浜市)



「How is the weather?」「Rain」。横浜市立伊勢山小学校5年の英語の授業は、和田恭子教諭が流ちょうな英語でありさつを問いかけて授業が始まった。続いて「This is my treasure」など、自分の宝物を紹介する表現を学んだ。児童に電子辞書やタブレット端末が配られ、辞書を引きながら適切な英単語を探していく。児童はグループで話し合い、それぞれの宝物を紹介する英文をノートに書き留めていった。児童らは「考えごとを英語で言えるようになるのがうれしい」「英語を調べ

# 3年生以上20年度に必修

## 英語得意な先生 確保探る小学校

2020年度スタートの新学期指導要領で小学3年生以上から英語が必修になるのを前に、小学校の英語指導体制の見直しが進んでいる。1つの柱が学級担任を持たず英語のみを教える「専科教員」の増員だ。質の高い授業を行えるほか、担任教員の負担を減らすことが期待される。文部科学省も19年度までに2千人増やす方針で、学級担任の英語指導力の強化と並行した対策として進められている。

### 「専科教員」増員 ■ 担任の指導力も磨く

2011年度から必修化された小学校での英語教育は、20年度からの新学期指導要領で大きく変わる。これまでは5、6年生で年間30時間の「外国語活動」が必修だったが、20年度の指導要領改訂で3年生から英語が必修になる。5、6年生は英語が正式な教科となり授業数が年間70時間に増え、検定教科書を使って簡単な文法も教える。

### 5年生からは正式教科に

また、現在は5、6年生に対して教員が学習意欲を高め記述で評価しているが、今後は教科化され成績をつけることになる。英会話教室のイオン（東京・新宿）が18年4月に現役小学校教員約150人に調査を行ったところ、現在の「外国語活動」で教員自身が課題だと感じている点で最も多かったのは「評価の仕方」で89人だった。

ながら英語を書くのは楽しい」と笑顔で振り返った。和田教諭はマレーシアからの帰国子女で英語が堪能なバイリンガル。これまで担任を続けていたが、18年度からは英語だけを教える専科教員として5、6年生の英語を受け持つ。持丸隆一校長は「高い質で全クラス英語の授業が行え、各児童の学力差も出にくい。担任の負担も減るなどメリットは大きい」と話す。

小学校では11年度から5、6年生に「外国語活動」が導入され、現在年間30コマの英語の授業が設けられている。20年度には学習指導要領の改訂で3年生から英語が必修化になるなど英語の授業数はさらに増える。

懸念されているのが小学校の英語の指導体制だ。伊勢山小学校のように専科教員を置く小学校は実は少数派だ。全国の英語の授業のうち専科教員が受け持っているのは4.3%にとどまる。

文部省は学級担任の負担を減らし、質の高い授業を行える専科教員の増員を目指す。18、19年度で、中高の英語教員免許を持つなど英語力が高い専科教員を計る千人増やす方針を立てている。

ただ、英語の授業を受け持つのは大半が学級担任。そこで、文科省は20年度に備えるため、教師用の指導書や年間指導計画案を示すなどしてサポートを試みている。文科省の担当者は「専科教員の加配と学級担任の指導力の強化。この2点を両輪に対策していきたい」と見込む。

学級担任の指導力を向上させるため、輝井氏は全国に先駆けて18年度から3年生に英語の授業を始めている。担当者は「いきなり授業時間数が増えれば児童だけでなく教員も適応に時間がかかる。準備期間と徐々に指導力を伸ばしてほしい」と狙いを説明する。

北海道教育大の専谷隆一教授（英語教育学）は「英語力だけを見れば専科教員の方が指導力は高い」としながらも、小学校では英語を染め込むように学ばせることが重要だと指摘。「普段の生活や性格をよく知る学級担任の方が、児童と英語でコミュニケーションを取りやすい。各校の専科教員は同様に英語の指導法を教えるなどして、教員全体の英語指導力を底上げする必要がある」としている。  
(玉岡宏隆)

私の人生最大の目標は、ドラえもんに出演したことである。それも、本の監修やポスターの作製に関わったというのでは

### すく・不思議

かで見え方が、慌て確認し

伊藤 亜紗

ともうときですく不思議な

があつて、うまくやる意識すればするほどかえってうまくいかない。もし人工知能が身体を持つとすれば、それは人的